

## 平成 22 年 12 月定例会市議会市政報告

平成 22 年第 7 回釧路市議会 12 月定例会の開会にあたり、9 月定例会市議会以降の市政の概要についてご報告申し上げます。

報告の第一は、財政健全化の取組についてであります。

財政健全化の取組につきましては、これまでも申し上げてまいりましたとおり、今後 16 年間の経常的な収支不足と釧路市土地開発公社及び釧路振興公社の抱える多額の負債を合わせた約 265 億円を整理することで、釧路市財政の将来的な負担と不安を解消することを目的としており、この取組を進める上では何よりも、市民の皆様のご理解が大変重要であると考えております。

こうした認識から 9 月定例会の会期終了後、私と副市長が分担し、直接、市民団体の皆様に釧路市の厳しい財政状況や、両公社の巨額の負債整理に取り組まなければならない状況、今後の健全化の取組などについて、資料をお示しし説明する機会を持たせていただいたところであります。

これまで、釧路市連合町内会をはじめ全市的な団体 7 団体に説明させていただきましたが、市民団体の皆様からは歳入確保の取組について、市税の滞納整理強化や企業誘致などにご質問をいただいたほか、釧路市の活性化についても幅広くご意見をいただいたところであります。

また、9 月定例会において、市民生活に影響を及ぼす主な市民サービスや団体補助金などの事務事業について検討内容をお示したところではありますが、見直し内容についてご理解をいただくため、事業所管部署から関係団体等に内容をご説明してまいりました。

本定例会では、見直しを検討している全ての事務事業、使用料、手数料等の一覧並びに見直し効果額等を見込んだ財政健全化推進プランの素案をご提示させていただき、その上で、市民の皆様にプランをお示しし、今後の財政健全化対策についてご説明してまいりたいと考えております。

今後とも、市としての説明責任を十分果たしながら、財政の健全化に努めてまいりたいと考えております。

報告の第二は、「国際バルク戦略港湾」の指定に向けた取組についてであります。

先週の 12 月 2 日に、第 11 回国際バルク戦略港湾検討委員会が開催され、高橋知事をはじめ、連携港の港湾管理者、ユーザーの皆様のご出席を賜り、第 2 回目のプレゼンテーションを行ってまいりました。

今回のプレゼンテーションにあたっては、第 1 回目のプレゼンテーション後

に国の検討委員会からいただいた意見書に基づき、計画書案を再精査し、11月19日に正式に計画書を提出しております。

検討委員会からいただいた主要な意見としましては、「目的として戦略港湾の果たす役割」、「連携の具体性、熟度、具体的な内容」、「対象ユーザーの合意状況」、「港湾間連携」、「物流コストの削減額」などでありました。

今回のプレゼンテーションでは、再精査した計画書を基に、私から釧路港の果たす役割と重要性を説明した後、ユーザーより国際バルク戦略港湾のあり方と釧路港を核とした配船計画を、そして、最後に高橋知事より食料供給基地北海道の重要性や東北北海道の酪農業の役割を力強く訴えていただきました。

また、その後の質疑においても、釧路港が主張する戦略港湾の考え方や計画の熟度など、釧路港の計画書に対する一定の評価を委員各位からいただいたと受け止めております。

なお、プレゼンテーションは12月8日が最終日となっており、この後の委員会を経て、国際バルク戦略港湾が選定される見通しと聞いておりますが、今後も、釧路港の指定に向け、引き続きしっかりと取り組んでまいりたい所存であります。

また、ご支援を頂いております高橋知事をはじめとした北海道の皆様、並びに連携港湾の皆様、地元関係者の皆様、そして、署名にご協力いただいた72,783名の地域の皆様に、この場をお借りして感謝の意を表しますとともに、今後におきましても、力強いご協力をいただきますようお願い申し上げます。

報告の第三は、釧路市立音別幼稚園・保育園増改築工事についてであります。

音別保育園は昭和43年に建設されて以来42年、音別幼稚園は昭和53年に建設されて以来32年が経過し、老朽化が進んでいたことから、両施設の整備は、音別地域の長年の懸案事項でありました。

そのため、市では、よりよい環境の中で、幼児期の健全な発達を育むことができるよう、本年5月より音別幼稚園と音別保育園の一体整備工事を進めておりましたが、今年20日に竣工する運びとなったところであります。

この度の一体整備によりまして、建物や設備が新しくなることは勿論のこと、より質の高い幼児教育と保育の充実が図られるものと考えております。

幼稚園におきましては、耐震改修に合わせた内装等のリニューアルと釧路市幼児教育振興計画に基づき園児室3室の設置を行い、保育園では、これまで一つの部屋で行っていた食事と休息を分離するため、ランチルームと睡眠室を新たに配置しております。

また、新設される調理室では、幼稚園と保育園の給食を同時に調理し、子どもたちに暖かい給食を提供することにより、子どもたちの食に関する指導にも、

効果があるものと期待しているところであります。

この度の新しい施設の完成を機に、子ども一人ひとりの発達に合わせた幼児教育と保育のさらなる充実に努めてまいりたいと考えております。

報告の第四は、釧路地域職業訓練センターの今後の方向性についてであります。

釧路地域職業訓練センターにつきましては、昨年12月に突然、国より廃止の方針が示されたことから、道内のセンターが設置されている4市と4センター及び北海道が連携して存続に向けた活動を行ってまいりました。

しかし、国の廃止の方針が変わらない中、北海道からは、センターの土地所有者である市がその機能を維持していくことが妥当であるとの考えが示されておりました。

また、釧路地域職業訓練センターの運営団体である釧路地方職業能力開発協会から、市が国からセンター施設の譲渡を受け、受けた後の同協会への再譲渡について要望を受けたところであります。

こうしたことから、譲渡を受けた後のセンター運営が安定的に行われるよう、施設の大規模改修への応分の負担を北海道に要望していた中で、北海道並びに国から大規模改修に対する支援の方針が一定程度示されたところであります。

このことを受け、市による譲渡の引き受けを判断し、11月末が期限とされておりました国への譲渡の申し出を行ったところであります。

国から市に譲渡された後は、職業訓練業務を円滑に継続しなければならないことを考慮し、当該施設を運営団体に再譲渡することが適切であると判断しており、運営団体と連携して、地域経済を支える技能者の育成を担う機能維持に努めてまいりたいと考えております。

報告の第五は、第83回日本学生氷上競技選手権大会についてであります。

平成23年1月6日から9日までの4日間にわたり、釧路市では6年ぶり4回目となります第83回日本学生氷上競技選手権大会、いわゆるインカレ大会が開催されます。

この大会は全国各地の大学より約千名の選手が来釧し、スピードスケート、フィギュアスケート、アイスホッケーの3競技において、自らの限界にチャレンジし、それぞれの母校の榮譽をかけた熱戦が繰り広げられる歴史と伝統のある大会であります。

大会開催に向けましては、7月に関係各位のご協力のもと実行委員会が設立され、私が会長に就任いたしました。また、11月からは事務局を柳町スピードスケート場に開設して、準備作業を進めているところであります。

大会初日まであと僅かの期間となりましたが、出場選手がベストコンディションで大会に臨めるよう、また「氷都釧路」の魅力を全国に発信する絶好の機会として、各競技団体などとの連携を図り万全の運営体制を整えてまいります。

報告の第六は、釧路市動物園におけるアルパカの導入についてであります。

釧路市動物園では、道内公立動物園では初めてとなる偶蹄目ラクダ科のアルパカ3頭を導入し、去る11月7日、多くの来園者が訪れた中、旧キリン舎の一部を改修したアルパカ村で、お披露目式を開催し、その後、常時公開しているところであります。

動物園では、一昨年来、アフリカゾウとケープキリンが相次いで亡くなり、市民の皆様から、早期に動物を補充し、中央広場の活性化を図ってほしいとの要望が寄せられておりました。

こうしたことから、癒し系の動物として人気が高いアルパカの導入を行ったもので、現在、来園者の評判は大変良く、今後は飼育訓練を重ねることで来園者とのふれあいも見込めることから、アルパカを通じて中央広場の賑わいが戻るものと期待しているところであります。

報告の第七は、建設工事等の発注状況についてであります。

11月末日現在における建設事業の発注予定額は、約88億6千万円となっております。このうち発注済額は約83億2千万円であり、執行率はおよそ94%となっております。

このうち地元企業への発注は、金額で約70億円、率では約84%であります。主な建設事業別の発注率につきましては、道路事業が約88%、下水道事業で約89%、学校建設は約81%、住宅建設は93%の状況となっております。

今後とも、地域経済の動向を念頭におき工事の発注に努めてまいります。

以上で、市政報告を終わります。